

材料からの放出ガス

低温

真空層に接触する金属の温度が低い



真空層のガス分子が冷えた金属表面に吸着



温度、ガス種、材質によって内部に拡散吸収



より高真空化（真空維持容易）

※低温でガス放出量が少ない材料であれば輻射材として使用可能となる。（条件を満たせば有機材料も使用可能）

高温

真空層に接触する金属の温度が高い



金属内部のガス原子が真空側の禁則表面に移動



金属内部からのガス分子として放出



放出ガスを把握しなければ、真空維持が困難

※ガス放出量が少ない材料でなければ使用できない。

